

6月号

School Aid Japan Cambodia

スクール・エイド・ジャパン・カンボジア

Dream通信

2008.6.No,3



踊りの鑑賞会を実施しました ～間近で見る踊りに子どもたちの表情も真剣です～

2008年4月10日に、「夢追う子どもたちの家」で踊りの鑑賞会を実施しました。カンボジアの伝統舞踊には様々な種類があります。子どもたちは毎週日曜日の午後の3時間に伝統舞踊の稽古をしています。現在習っている踊りも伝統舞踊を間近で見たことはありません。「お手本となる踊りを園の子どもたちに見せてあげたい。」と思い、踊りの稽古を指導してくれている、ソ・パル先生にお願いをして踊りの見学と鑑賞会をすることになりました。当日はソ・パル先生とその教え子の学生のみなさんが、子どもたちに踊りを披露するために園を訪問してくれました。踊り子の学生はまず踊りを踊るための着付けの作業を行います。女性の踊り子は綺麗な衣装や髪飾りなどを身にまといまいます。衣装を身にまとい綺麗に変身した姿に、園の子どもたちは釘付けでした。着付けの作業が終わるといよいよ踊りの披露です。踊り子の学生たちは、日頃から催し物の際に踊りを披露しているため、指先から足先まで揃っていてとても綺麗でした。子どもたちも間近で見る踊りを真剣な表情で見つめていました。当日は子どもたちが現在習っている踊りを含めて3種類の踊りを鑑賞しました。これからの踊りの稽古に子どもたちの意欲も高まり、とても有意義な時間でした。



踊りの衣装に着替え、装飾品を付ける踊り子。



綺麗な衣装に子どもたちの視線も釘付けです。



真剣な表情で踊りを見る子どもたち。



指や足先まで意識した踊り。



3種類の踊りを披露してくれました。

～トンレサップ湖の水上市村へ社会科見学に～



水上村のボートを2台レンタルしました。



水上村の風景。約6,000人が生活しています。



たくさんの小船が行き来する水上村の様子。

2008年5月13日から15日の3日間、カンボジアでは国王誕生日のため祝日にあたります。連休最後の15日に「夢追う子どもたちの家」の子どもたち32名と職員3名で、トンレサップ湖にある水上村へ社会科見学に行きました。トンレサップ湖はカンボジアの中西部に広がる東南アジア最大の湖で、雨季には乾季の3倍の面積になります。約600種類の淡水魚が生息し、多くの人々の食生活を支えています。トンレサップ湖には数多くの水上村が存在しますが、見学に行ったコンボンルアンの水上村には、約1,600世帯6,000人の人々が生活を営んでいます。ガイドの方の話では、約7割がベトナムの人々で、残りの3割がカンボジア人とチャム族の人々とのことでした。当日は朝8時に孤児院を出発し、トラックで20分かけて船着場に到着しました。船着場からはボートを使用しなければ水上村へは行けません。ここからはレンタルしたボートを2台使用して、水上村へ向かいます。不安定な足場に慣れていない子どもたちは、最初は心配そうな表情をしていましたが、船上の感覚にもすぐに慣れて、早速出発しました。水上村には雑貨屋、食材店、学校、寺院などはもとより、ガソリンスタンドや家畜小屋もありました。家やお店は竹や木材などで浮いており、家同士が衝突した時に傷つかないように、外壁にはタイヤが取り付けられてありました。午前中のまだ早い時間だったためか、食材や生活雑貨を積んだ小船が多く往来し、村のメインストリートにあたる水路はとても活気に溢れていました。子どもたちは水上村にあるカンボジアの寺院、ベトナムの寺院、キリスト教の教会、そして小学校などを見学して回りました。異なる文化や、外国の宗教などを見学する子どもたちの表情はとても真剣でした。今回の課外活動で、ベトナムの人々が多く生活する水上村を見学することで、自分たちの国や社会、そして異文化について理解を深めるきっかけになればと思っています。



ベトナムの寺院を見学しました。



水上村にある教会と小学校。



水上村の小学校を見学する子どもたち。